

# 道博協ニュース 第128号 (2021年3月17日発行)

## 2020年度ミュージアムマネジメント研修会

### ～「地域の暮らし、文化を潤す動物園の姿～札幌市円山動物園の新たな取り組み～」

今年度のMM研修会を、11月5日（木）と6日（金）に開催しました。北海道立文学館を会場とした1日目は、加藤修氏（札幌市円山動物園園長）による基調講演に続き、加藤氏、佐々木亨氏（北海道大学文学研究科教授）、牧慎一郎氏（大阪市立天王寺動物園園長）によるシンポジウム。2日目は、円山動物園の見学会でした。感染症の状況もあり、参加者数は、1日目19名、2日目13名と少なめでしたが、充実した研修会でした。

1日目に参加された個人会員の佐々木利和さんに一文を寄せていただきました。

講師の加藤修先生は現在札幌市円山動物園長でいらっしゃる。実際に動物園の経営にあたられている視点からのご報告は現実をふまえての、かつ将来への深い想いが大きな課題として聴する側に提起なされた。①日本の動物園の歴史と課題、②円山動物園の概要、③動物園条例制定の背景、④動物園条例の制定の四点についてお話しでした。



この中で①に関しては、わたくしの若いころとかかわる話柄がありました。ひとつは1972（昭和47）年、上野動物園にパンダが来日した時の記憶。パンダ（ランランとカンカンといいました）がはじめて公開されたのが、奇しくもご講演の日と同じ11月5日。その日をさかいに上野動物園の正門前には長蛇の列が何日も続きました。わたくしは採用されて間もない東京国立博物館の職員。博物館の正門の前でその行列をみていると、ふとひとの気配がしてささやきが聞こえました。「あの十分の一でも博物館に来てくれないかな...」と。ささやかれた人は館長だったので

す。当時の東京国立博物館は集客に苦しんでいました。

いまひとつ。先生は1882（明治15）年「日本で初めて農商務省所管の博物館附属施設として上野動物園が誕生」と述べられています。農商務省の博物館というのは帝室博物館などをへて現在の東京国立博物館。動物園は1924（大正13）年に東京市に下賜されるまで東京帝室博物館の一部局でした。帝室博物館は一大総合博物館だったのです。それはともかく、農商務省博物館以前に文部省博物館に博物館が設置され、1872（明治5）年に湯島聖堂跡で政府主催の最初の博覧会が開かれます。ここに動物園的な施設もあって北海道産のヒグマも観覧の対象となります。このときの世話係（蓄養人といいます）が石狩のアイヌ志村弥十郎さんだったのです。かれは明治政府が東京で雇用した最初のアイヌのひとでした。

加藤先生のお話を拝聴しながら一瞬の懐旧でしたが。閑話休題。

わたくしたち博物館と称する職場に勤務するものは、根拠となる法律が博物館法であることを承知しています。そしてこの法律は動物園をはじめとする生き物を扱う館・園も多少のかかわりをもってはいることも知識となつてはいるはずですね。その法律の中では博物館類似施設として。

加藤先生はおっしゃる。日本の博物館は見世物小屋としてはじまったという残念な歴史をもっているのだと。



さきの聖堂跡の博覧会でもそうでした。確かにわたくしが上野に勤務していたころ、疲れた時やいらいらした時などはサル山をみると気分が和むから行ってこいと先輩たちによくいわれたものでした。でもパンダの来日によって国民の意識が変化していき、野生動物の保護の必要性が認識されていったというご指摘もありました。

生き物の絶滅する勢いが増し、生物多様性の危機は待たなしの状況になっている（今日では年間に約4万種が地上から姿を消しているのだと）。いま動物園に求められているのはそうした生き物の保全活動なのであるとも。野生下での保全と動物園での生息外保全と。このお話は衝撃的でした。

かかる重要な状況下にあつて、日本では動物園など生き物の館・園に関する根拠法はありません。動物園法も水族館法も植物園法も存在しないのです。これらにかかわりをもつ法律は博物館法のほか、動物愛護管理法、都市公園法、自然公園法施行令などがあるのだそうです。なにせ縦系列の法律ですから…。

こうした状況をふまえて、加藤先生は円山動物園の現況にふれられます。これまで飼育員は高卒以下の現業職ということでした。そこで動物専門員を制度化し、飼育員の希望者は試験を経て一般職（技術職）の動物専門員に転任したり、新規に採用するなどしていかれたので

す。これをはじめとして円山動物園の変革を考えていくようになっていきます。大きいのは入場者数目標年間100万人などの目標設定をやめたことなどです（博物館では考えられない数字ですが）。

そして「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」の理念をもつ円山動物園基本方針「ビジョン2050」という今後の動物園運営指針を策定したのです。このビジョン2050で示した動物園運営の基本となることがらを根拠として、さらに生物多様性保全を達成するために新たな動物園条例制定につなげていくというのです。

前述のように動物園など生き物に関する館・園の法律はありません。それらを博物館法で、というのは相当に無理があります。わたくしのような古い博物館員には生き物を「展示する」ということばにはついていけないところがあります。展示するのは檻の中というイメージが強すぎるのです。ひとと生き物との共生を考えるのならば、札幌市動物園条例からはじめて、省庁間を横断するかたちでの「生き物館・園」法の制定も急ぐ必要があるだろうというのが、加藤先生のお話をうかがっての強い思いでした。

札幌市動物園条例の早い制定・施行を望んでいます。



（個人会員 佐々木利和）

#### 道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

### サケ稚魚の放流体験開催中

3月に入り、サーモンパークの積雪もだいぶ溶けて地面が広がってきました。この時期になると、千歳水族館で千歳川の中を覗ける観察窓では、海へ下るサケ稚魚が徐々に増えてきます。この稚魚

たちは、千歳川の上流にある千歳さけます事業所から、放流されたサケがほとんどです。毎年3月から4月の期間で、およそ3千万匹の稚魚が人工ふ化放流事業として放流されています。

1888年から続いている千歳川の人工ふ化放流事業は、産卵のため川に遡上したサケを捕獲し、人工授精した卵を育て稚魚を放流しています。そして、海で大きく成長し、川にのぼった親ザケは

採卵のため、現在はインディアン水車で捕獲されます。昨年のインディアン水車で捕獲は、338,082匹となり、放流数に対して約1%戻ってきた年でした。この事業で実施しているサケ稚魚の放流を紹介するのが、千歳水族館で恒例の人気体験プログラムとなっている「サケ稚魚の放流体験」です。

放流体験では、私たちが食料として利用するサケを増やすための人工ふ化事業の一環であることを知ってもらうことや、サケの回遊生態などの解説の後に、コップに入れた稚魚をご自身の手で、サーモンパークの小川に放流します。稚魚が成長して千歳川に戻ってくるのは、主に人工授精してから4年後。昨年人工授精して育った稚魚と再会できるのは、2024年の秋です。しかし、無事に帰ってくるのができるのは1%ほどと、とても厳しい旅です。

サケ稚魚の放流体験は、5月31日まで毎日11

時と14時の2回、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら実施しています。そして、稚魚の行く手に待つ壮大な旅に思いを馳せながら、3年後の再会を願ってサケの旅立ちを応援してください。



サケ稚魚の放流体験の様子  
(サケのふるさと千歳水族館 日原 俊)

#### 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

### 道南の博物館・資料館をめぐる、縄文スタンプラリー「Jomon とれじゃーはんていんぐ」

市立函館博物館では、令和2年度の企画展「津軽海峡北岸の縄文遺跡」にあわせて、渡島総合振興局、展示資料を借用した八雲町郷土資料館・森町遺跡発掘調査事務所展示室・七飯町歴史館・北斗市郷土資料館・木古内町郷土資料館いかりん館・チロップ館（福島町）、松前町郷土資料館、函館市縄文文化交流センターの協力を得て、縄文スタンプラリー（8/1～9/30）を開催しました。

企画展とその関連事業は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録へ向けた取り組みでしたが、スタンプラリーは、世界遺産だけではなく、地元の縄文の遺物や各地域の資料館に興味をもってもらうために企画したものです。家族で楽しく参加できるように、3館、5館、全9館を回ると、その都度景品がもらえる仕組みとしました。景品は、若干の企業協賛品のほか、各館から提供されたもの、啓発グッズなどを用意しましたが、手づくりグッズを用意してくれた館も多く、より身近に感じられる取り組みになりました。

当館としてははじめての試みで、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、企画展の開催期間や資料の借用先を変更、他の関連イベントも中止という苦しい状況下での実施となりましたが、3館達成者が440人、5館達成者が293人、205人が9館すべてを訪れるという、うれしい結果となりました。とくに、夏休み期間中や土日は、遠方への外出が制限されるなかで、世界遺産への期待もあってか、多くの家族連れでにぎわいました。

開催期間は、道内や総合振興局管内をめぐる、モバイルスタンプラリーと重なっていましたが、ターゲットを小学生とその家族とし、あえてアナログのスタンプと紙の台紙で実施したことも、参加しやすかったのではないかと思います。



スタンプラリーのポスターとスタンプ図案  
(函館市・角偶)

スタンプは各地の遺物を基に作成しました。  
(市立函館博物館学芸員 奥野 進)

#### 日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

### 恐竜（レプリカ）売ります・貸します

#### —恐竜化石を活かしたまちづくり—

(道博協ニュース第115号のつづき)

主に2013年と2014年に当館と北海道大学総合博物館が共同で発掘した恐竜化石は、2016年に「むかわ竜（通称）」と名付けられ、恐竜化石を活かしたまちづくりの中心的な役割を期待されました。

調査研究のため、化石を取り出す博物館のプレパレーターを1名から4名まで増員したほか、むかわ町では、2016年に（現在の）恐竜ワールド戦略室を設置し、町民の機運を向上させる活動を進めてきました。

むかわ竜などを展示するための新博物館建設の計画については、2018年の北海道胆振東部地震の影響で延期となりましたが、むかわ竜は2017年に全身骨格の恐竜であると発表され、全国のニュースになったほか、NHKスペシャルで特集されるなど大きな話題になりました。

恐竜の全身復元骨格（レプリカ）づくりを行う業者の一つで群馬県に本社のある（有）ゴビサポートジャパンが2017年にむかわ町穂別に工場を構え、むかわ竜の全身復元骨格の製作に取り掛かりました。この全身復元骨格（1体目）は、実物の化石とともに「恐竜博2019」（国立科学博物館、

東京）の目玉の一つとして展示されました。この展示の会期中に小林快次教授（北海道大学総合博物館）を中心とする研究グループによる学术论文が出版され、むかわ竜に「カムイサウルス・ジャポニクス」という学名が与えられました。学名にはアイヌ語で神を意味するカムイを含め、北海道、日本を代表する恐竜であるという思いが込められています。

全身復元骨格は2体目がクラウドファンディングでレンタル用に製作されたほか、町内の合資会社（M Dino）が窓口となり受注生産・販売することにもなりました。



カムイサウルス全身復元骨格2体目

(むかわ町穂別博物館 学芸員 西村智弘)

#### 道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

### 巡回展「森を支えるきのこ」を開催しました

富良野市博物館と士別市立博物館が共同で制作した特別展「森を支えるきのこ」を、道北地区博物館等連絡協議会巡回展として、ブロック各館で順次開催しました。旭川市科学館でも、令和2年9月17日から10月4日までの日程で開催しましたので、その様子を報告します。



旭川市科学館での展示（展示室入口）

数多くある菌類のなかでも「きのこ」と呼ばれるものは、担子菌門と子のう菌門に属しています。

私達が目にする「きのこ」はこれらの菌の繁殖器官である子実体という部分です。そのフォルムや色はさまざま、森の中でもひときわ私達の目を惹くものです。この展示では、きのこの生物学的位置付けから、自然界における分解者としての役割までをパネルで解説し、特に今回展示の中心となったハナイグチ(ラクヨウキノコ)については、樹木との共生関係を示す菌根の構造を模型で展示しました。

旭川市科学館での開催にあたっては、富良野市博物館から、ハナイグチが発生したカラマツ林のジオラマを借受けて展示し、展示室入口はさながら森の雰囲気になりました。また、市内に所在する北海道立総合研究機構林産試験場の協力を得て、きのこに関する最新の研究成果をパネル展示したほか、旭川きのこの会顧問の北郷興亜さん

による、講演会「きのこの話あれこれ」を開催し、写真を交えてこの地域に発生するきのこの紹介や、楽しみ方をご紹介いただきました。

きのこというと、ハナイグチやナラタケ(ポリポリ)など、山菜としての秋のものという印象がありますが、雪解けの時期からはエノキタケやナメコ、桜の頃のアミガサタケ、夏になるとタマゴタケやタモギタケなど、北海道でも一年中いろいろなきのこを見つけることができます。森や野原、公園などに出かけて探してみると発見があるでしょう。

(旭川市科学館 三浦弘人)

#### オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

### オホーツク管内博物館協議会研修会の実施

オホーツク管内博物館協議会では、令和3年3月27日(土)、美幌町民会館で行われました。「私たちのふるさと情報」というテーマで、4人の講師による講演会を実施した後、美幌博物館で開催中の特別展「びほろのアケボノ」を見学しました。

「水田に戻ってきたヘイケボタル」というテーマで行われた講演では、美幌博物館の鬼丸和幸学芸員より、石川県白山市で調査している水田において、完全無農薬農法を取り入れたことで、ヘイケボタルが自然増加してきた事例を取り上げ、ホタルを保護しながら、稲作経営を継続している工夫について紹介をうけました。

特別展「びほろのアケボノ」の見学では、展示のテーマである美幌町の旧石器時代について説明を行いました。美幌町では現在13か所の遺跡が確認されており、このうち、展示されている資料の中心となる元町2遺跡及び3遺跡について、遺跡からの遺物出土総数が約20万点にもなりま

す。石器の材料となる黒曜石の原産地から離れていることを考えると、消費地遺跡としては異例な規模の遺跡であり、当時のヒトやモノの動きを考える上で、非常に重要な遺跡であるのではないかと、の解説を行いました。

今回の研修は、自然や歴史など多岐の分野に渡り、新たな知見を得る場として非常に有意義な時間になったと思われま



(美幌博物館 八重柏 誠)

#### 道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

### 創立30年記念 令和2年度道東3管内博物館施設等連絡協議会 交流推進会議開催

10月1日～3日、別海町図書館などにおいて、テーマを「地方博物館の必要性、これからの時代へ可能性を探る。」とし、地方博物館の必要性を改めて認識するとともに、より良い博物館活動を

模索するための会議を開催しました。

基調講演、活動報告、施設見学に加え今年度は、会創立30年の節目の年で、記念企画「これからの博物館人のみなさんへ」3管内博物館職員OBによる回顧談と座談会、さらに前夜祭「史跡旧奥行臼駅通所宿泊体験」を実施しました。

基調講演は、元根室市歴史と自然の資料館学芸員の札幌大学教授川上淳氏を講師として、博物館施設の役割、近年の傾向、自身の学芸員時代の取り組みや道内の先進的事例などのご紹介いただきました。なかでも住民との連携活動の強化が地域に開かれた博物館をつくる原動力となると指摘されました。

活動報告は、浦幌町立博物館、標茶町博物館、別海町郷土資料館より、現状と課題、新たな可能性について報告いただきました。



講師を囲んでの記念撮影

回顧談は、「これからの博物館人のみなさんへ」として後藤秀彦氏（元浦幌町立博物館）、西幸隆氏（元釧路市立博物館）、川上淳氏より、ご自身の経験談や博物館人として必要なことなど、引き続き参加者を交えて行われた座談会でも、今後の博物館活動を考える上で有意義な多くの助言をいただきました。

前夜祭で行われた「史跡旧奥行臼駅通所宿泊体験」では、駅通夜話や参加者による学芸職員何でも報告会など多くの情報交換が行われました。

コロナ禍により私たちの生活が大きく変わり、博物館も従来と比べ窮屈な活動を強いられていますが、OB職員からの助言により、もう一度原点を見返し、新たな活動を模索する良い機会となりました。

(別海町郷土資料館 石渡一人)

## 日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

### 二つのウイルスへの警戒

2019年12月に端を発した新型コロナ感染症は、急激な勢いで感染者数が増加し全世界に広がった。一年が経過した今でも感染が収束するには至らず、北海道でも集中対策期間を設け対策がとられている。当園でも「新しい生活様式」に基づき入園者や職員に対して対策を継続して実施している。

コロナウイルスは家畜や野生動物などのあらゆる動物に感染し、様々な疾患を引き起こすことが知られてきた。多くは、軽症の呼吸器症状や下痢を引き起こすだけであり、致死的な症状に至ることは稀な事例と報告されている。その中でもネコ科、イタチ科の動物には少なくとも感受性があり、対照的にイヌ科の動物は感受性が低く、ニワトリやアヒル、ブタは非感受性である可能性が高いとされている。研究は進んでいるがウイルスの変異や事例が少ないことから、

あくまでも可能性としての見解であり断定には至っていない。動物からヒトへの感染は低いが海外では毛皮用に飼育されていたミンクから従業員に感染し35万匹以上のミンクが殺処分されている。動物を管理する職員やペットを飼われている方々は健康管理に常に注意し、まずはヒトが感染者にならないように動物に接することが大切である。

もう一つのウイルスは鳥インフルエンザウイルスがあり、中でも高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は鳥類にとっては脅威であり、その感染力の強さ、高致死性により家禽産業の鳥類に確認されれば及ぼす影響は甚大であり、まん延を防ぐために多くの鳥類の命を奪うことに結びついていく。今年の1月に帯広市内で死亡した野生猛禽類からHAPIが検出され、当園も「監視重点区域」となり、動物園動物も例外ではなく園内の飼育鳥類から発生すれば同様な措置を講じなければならない。道内ではハクチョウ・カモ類が飛来し越冬地となる晩秋からリスクが高くなっていく。オオハクチョウが鳴きあいな

から優雅な編隊飛行を目にすると、冬が来るなと感じるとともに、大きな被害がないことを願う。

(おびひろ動物園 園長 柚原和敏)

## 学芸職員部会 NEWS

### 「カビ対策研修」のその後

2020年9月24日に開催された令和2年度学芸職員部会研修会の研修テーマ1は「資料の適切な保存環境とカビ対策」でした。主な内容は部会ニュース No.94 で高橋会員が報告されていますので触れませんが、当町が研修テーマを要望した経過もありますので、その後の取組状況をこの場を借りて報告します。以下、研修内容の順に沿って列記します。

ピリカ旧石器文化館でカビが発生している展示ケースは、スペースが広い割に密閉状態になっており、湿度管理が難しい状況でした。そこで、重要文化財展示室と同様に、扉に通気用のガラリを取り付ける修繕を行い(写真)、扉越しから除湿器を稼働させ、開館時間内でも必要に応じて除湿できるよう改善しました。また、当ケース内の調湿剤は以前の2倍に増やしました。

収蔵庫でカビの発生が著しい資料のうち、革



製品の馬具についてはそもそも同じ資料が多数ある状況にメスを入れることにしました。保存する資料を厳選し、それ以外を廃棄した訳です。苦渋の選択でしたが、全体への悪影響を防ぎ、発生源を減らすことを優先しました。

現状把握の面では、温湿度計のデータロガーを計5台購入し、各所に設置しました。これらはすべて Bluetooth 転送式の機種で、係員がスマートフォンアプリでデータを回収して回り、危険な状況があれば学芸員に都度報告する運用方式としています。ただし、講師が推薦された機種ではなく、廉価な機種 (INKBIRD IBS-TH1) のため、品質や性能等については今後注意を要するところです。

その他の備品としては新規に HEPA フィルター付き空気清浄機3台、サーキュレーター1台等を導入しました。

当館は立地的、気候的に多湿の環境下にあるため、余計に管理の目を行き届かせ、適切な保存環境づくりに努めたいと思います。

(今金町教育委員会学芸員 宮本雅通)

## 北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

### 北海道第1号科学館

#### 58年の歴史に幕

昭和38年4月1日に開館した室蘭市青少年科学館は、令和3年3月31日をもちまして閉館し

ます。

開館当初は全道各地から修学旅行生が見学に訪れ、大型バスがひっきりなしに出入りしていたそうです。また、プラネタリウムは休む間もなく連続で投影し、おにぎりを頬張りながら操作をしていたと当時の職員から聞きました。

私自身は子どもの頃から家族や友人達と一緒によく遊びに来ており、地震体験台など当時遊ん

だ展示物の多くが、まだ現役で稼働しています。

平成17年からは、私ども指定管理者NPO法人かもけんが管理運営を行ってきました。予算の都合上、展示更新が出来ない中で職員同士がアイデアを出し合い、リサイクル品を利用した手作りの実験道具や工作コーナーを展示室内に設置し、元教員が中心となったガイド役のスタッフが来館者の年齢に合わせた解説を行っています。

また、子どもたちの「科学する心を育む」施設として開館当初から科学クラブが開講されました。

今年度は講座数や定員を減らしての開講となりましたが、小学4～6年生計48名が各学年ごとに、実験やプログラミングなど19講座を受講しました。子ども達は班の仲間と相談し、時に助け合いながら目を輝かせて実験に取り組んでいました。

「科学の楽しさ、みんなと協力できるというすばらしさをあらためて知りました」と感想を寄せてくれた子がいました。「科学する心」だけではなく、様々なことを科学館に来て吸収してくれた

ことに嬉しく思うとともに、職員として身の引き締まる思いがしました。

今年の12月には新たに室蘭市環境科学館が開館する予定です。来館者が様々なことを吸収し、現行館の様に末永く愛される施設になって欲しいと願っています。



(室蘭市青少年科学館 館長 楠原晴子)

#### 北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

### 新しいホームページを、

### 猛々しいフクロウの巣に。

当会の令和2年度(2020年1月～12月)の活動は、やはりコロナ禍の影響を大きく受けた。

例年、3月第1週の木曜日と金曜日は、札幌の北海道立近代美術館に会員の多くが集まる日だ。外部講師によるレクチャーや会員による発表等の相互研鑽を行う研究協議会、会の運営と活動について審議する総会、会員の交流と情報交換の場である懇親会を開催し、一年後の再会を約してそれぞれの現場へ帰っていく。しかし令和2年度は、2月以降の感染拡大のもとで全てを中止とした。

その後、様々な社会的活動が再開し始めた6月末、総会をメールによって開催した。この時に決議された新規の案件が、会報のweb化とホームページ運営に関わる具体的事項である。

当会は平成2(1990)年12月設立、翌年7月から活動の記録と発信として、年1回のメースで会報「NORTHERN OWLS」を発行してきた。しかし、紙媒体に要する経費や、webの持つ広範囲への発信力と大きな情報量等の諸要素を検討し、平成30年度の総会において会報のweb化に取り

組むことを決定した。以後、会報チームにおいて作業を進め、今回のメール総会を経て、12月25日のクリスマス、全会報が閲覧可能なホームページを公開した。

ホームページには他にも、名簿や規約などの基本情報を掲載している。アドレスは<https://doubigakugeiken.com/>(または「道美学芸研」で検索)。ぜひ一度、お訪ねください！

30年前、当会の創立を担った諸先輩が、会報の名に「OWL=フクロウ」を選んだのは、フクロウが西洋美術において「知恵」の象徴とされてきたことに由来する。コロナ禍において、心の癒やしや再生がますます美術に期待されるようになったと感じているが、それに応えるためにも、フクロウの猛々しさを思い起こそう。ホームページは立ち上がった。次はそこが、知の猛禽の巣となるよう、さらなる活用に向けて会員の知恵を出し合っていきたい。





### 北海道美術館学芸員研究協議会とは 本会の目的

本会は博物館学、美学、美術史等についての研究、協議を行なうとともに会員相互の連携、情報交換を図り、北海道の美術館等学芸員並びに学芸業務に従事するものの資質の向上、および各館の活動の充実に資することを目的とする。

道美学芸研ホームページより  
(北海道立近代美術館 中村聖司)

## イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2021年4月～9月

詳細は各館園にお問い合わせください

### 石狩

#### 北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
4/10	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
5/8, 29, 6/19, 7/10, 31, 8/21, 9/11	「ちゃれんが古文書クラブ (全12回) 第1回～第7回」
5/23	ミュージアムカレッジ「じっくり聴こう！アイヌの音楽」
6/13	ミュージアムカレッジ「アイヌの英雄叙事詩を聞くーうたと言葉」
6/20	開館50周年記念イベント「映画上映会 北海道開拓記念館ができたころ (仮)」
6/26, 27	特別イベント「北海道ジオパークまつり 2021」
7/4	アイヌ語講座「アイヌの物語を聞いてみようーマタタビのカムイ登場ー」
7/10～9/20	特別展「北海道の湿地 (仮)」
7/17	開館50周年記念イベント「竣工50年！北海道博物館の「建物」の魅力」
7/18	ミュージアムカレッジ「サハリンの湿地・鳥・人」
7/24	自然観察会「水辺の生きものをさがそう！」
8/1	子どもワークショップ「アイヌ音楽 うたって・おどって・ならして」
8/7	子どもワークショップ「親子で探検！ 森のコレクションをつくろう」
8/8	子どもワークショップ「小さな野球盤づくり」
8/21	子どもワークショップ「草原の主・トノサマバッタをさがそう」
8/22	開館50周年記念イベント「映画上映会 復元家屋建設 (仮)」
8/29	ミュージアムカレッジ「ウトナイ湖・勇払原野の野鳥と自然」
9/5	ミュージアムカレッジ「札幌にもいた！？カワウソのお話」

9/12	講演会「湿原の自然誌と変遷」
9/19	子どもワークショップ「糸電話で、もしもしコンニチハ」
9/26	ミュージアムカレッジ「民族音楽学」入門」

**札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)**

期間	タイトル
2/27～4/11	特別展「札幌美術展アフターダーク」
4/29～6/27	特別展「THE ドラえもん展 SAPPORO 2021」
7/17～8/22 (投稿募集期間)	イベント「キースとコラボ! あなただけのストーリーコンテスト」
7/17～9/26	特別展「アート×コミュニケーション=キース・ヘリング展」
7/17～9/26	イベント「誰でもストリート・アーティスト」
7/17～7/19, 9/18～9/20	イベント「アメリカンマーケット」
8/7	イベント「野外ライブペインティングマラソン by 日比野克彦」
※上記4イベント全て「アート×コミュニケーション=キース・ヘリング展」関連イベント	

**小原道城書道美術館 (011-552-2100)**

期間	タイトル
4/6～6/20	企画展「小原道城を形作る 五人の師匠 展」
4/10	ギャラリートーク 講師：小原道城 演題：未定
5/15	ギャラリートーク 講師：新谷谿雪 演題：未定
6/19	ギャラリートーク 講師：羽毛蒼洲 演題：未定
8月～11月	ギャラリートーク 各月1回実施予定。
8/10～11/30	企画展「(仮題)近代日本画展-旧帝室技芸員の人々」

**サケのふるさと千歳水族館 (0123-42-3001)**

期間	タイトル
3/1～5/31	サケ稚魚放流体験

**北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)**

期間	タイトル
4/24～7/25(仮)	ミニ企画展「生誕125周年記念 松原太郎展(仮)」
4/28～11/3	開館「史跡旧島松駅通所の公開」

**札幌市円山動物園 (011-621-1426)**

期間	タイトル
5/5	イベント「開園70周年 誕生祭①」
7/31～8/8	「夏の特別展」
8/21～9/29	「アースデイパネル展」
9/15	イベント「開園70周年 誕生祭②」

**北海道立文学館 (011-511-7655)**

期間	タイトル
4/1～3/31	常設展「北海道の文学」
4/10～7/4	常設展「アーカイブ「文学者たちの愛した品々」」
4/17～6/6	特別展「太宰治一創作の舞台裏」
5/2	映画鑑賞「風と樹と空と」

5/5・6/6・7/4・8/1・ 8/4・8/9・9/5	絵本の読み聞かせ等「わくわくこどもランド」
5/13・6/10・7/8・ 8/12・9/9	朗読会「月例朗読会「北の響 名作を声にのせて」」
6/19～8/15	特別展「天災地変人禍に抗して―北海道の災害と文学―」
7/13～10/10	常設展「アーカイブ「小山内龍が遺した漫画・絵本・挿絵の世界」」
7月下旬～8月上旬	創作講座「夏休み文学道場 中高生のための創作講座」
8/22	映画鑑賞「ラストゲーム 最後の早慶戦」
8/28～10/17	ファミリー文学館「彫り続けた北の自然―絵本画家・手島圭三郎の40年」

**北海道立近代美術館 (011-644-6881)**

期間	タイトル
4/17～7/4	展覧会「コレクション・ストーリーズ「北海道の美術／現代ガラス」」他
4/17～6/20	展覧会「日本浮世絵博物館秘蔵 国貞 広重 国芳 コレクション」
7/17～9/1	展覧会「コレクション・ストーリーズ「エコール・ド・パリ」」他
7/17～9/1	展覧会「へそまがり日本美術展」
9/15～11/7	展覧会「道銀芸術文化奨励賞受賞作家展」他

**札幌大学埋蔵文化財展示室 (011-852-9182)**

期間	タイトル
2/8～4/16	令和2年度札幌大学博物館実習企画展 「#with 感染症～ペスト・天然痘・スペイン風邪・コロナ～」 入場無料 (開館時間 9:30～14:30 休室日 水・土・日・祝・3/6・3/23)

## 空知

**月形樺戸博物館 (0126-53-2325)**

期間	タイトル
未定	未定

**三笠市立博物館 (01267-6-7545)**

期間	タイトル
5/1～5	体験イベント「化石博士になろう！2021GW」

## 後志

**小樽市総合博物館 (0134-33-2523)**

期間	タイトル
4/17～6/27	企画展「おたるの『春』みつけた」
4/24～8/12	運河館トピック展「集まれ！小樽の海岸性甲虫」

**倶知安風土館 (0136-22-6631)**

期間	タイトル
7/19	「めざせ！昆虫標本マスター①～入門編～」
7/24	「ライトトラップで夜の虫たちに会おう」
7/25	「めざせ！昆虫標本マスター②～応用編～」

**西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)**

期間	タイトル
2/19～7/11	展覧会「春から夏の展覧会「花鳥風月」
2/19～7/11	展覧会「おやこで楽しむ展覧会「いきもの図鑑」
4/17	講座「トライアート」
4/29～7/11	イベント「展示作品人気アンケート」
5/3	講座「美術館探検会」
6/26	イベント「西村計雄生誕記念イベント」
7/17～9/26	展覧会「画業をたどる展覧会「日本のゑかき 西村計雄」
7/17～9/26	展覧会「しりべしミュージアムロード共同展」
7/24～8/15	イベント「夏休み！自由研究応援部隊」

**渡島****北海道立函館美術館 (0138-56-6311)**

期間	タイトル
2/6～4/4	特別展「海と山との対話」
2/6～4/4	常設展「アートの『キラキラ』」「鷗亭と白秋」
4/24～6/20	特別展「北海道立近代美術館 友田コレクション×荒井記念美術館 ピカソ・コレクション 西洋版画の魅力」
4/24～9/26	常設展「没後20年 金子鷗亭 天来と鷗亭」「没後50年 田辺三重松」
5/1, 5/29	解説事業「見どころ解説」
5/3, 4, 5	映像事業「名画を楽しむ3日間」
5/8, 6/12	解説事業「美術講座」
5/15, 6/19	映像事業「美術映画会」

**市立函館博物館 (0138-23-5480)**

期間	タイトル
4/1～6/13	収蔵資料展「はこだての縄文文化」
4/1～9/26	収蔵資料展「はこだての歩み（通史）」
4/1～9/26	収蔵資料展「箱館戦争」
5/15～9/11	講座「春の函館公園・函館山自然観察会」ほか12講座
6/26～9/26	企画展「垣ノ島・大船遺跡と世界遺産（仮称）」
7/7, 8/7, 8/18	セミナー「展示解説セミナー 企画展「垣ノ島・大船遺跡と世界遺産」
随時（4月～10月）	おもてなし講座「行ってみよう！博物館「博見学のススメ」」 ・見せます！お宝公開 ・明治の博物館見学
随時	おもてなし講座「行ってみよう！博物館「博見学のススメ」」 ・展示解説 ・バックヤードツアー

**函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)**

期間	タイトル
4/24	体験「春の縄文染め～自然の植物で布を染めよう～」
5/15	体験「春の自然観察会」
6/12, 19	体験「鹿角釣り針と海釣り体験」（全2回）
7/6～8/29	企画展「大船遺跡と垣ノ島遺跡」
7/24	体験「土器の模様づくり体験」
8/7	体験「竪穴住居のジオラマをつくろう！」

9/4, 10/2	体験「縄文土器づくり」(全2回)
-----------	------------------

**森町公民館 郷土資料室 (01374-2-3479)**

期間	タイトル
なし	なし

**知内町郷土資料館 (01392-5-5066)**

期間	タイトル
4/15～9/30	講座「知内学のすすめ」
4/24～9/26	体験学習「ふれあい体験塾(ミュージアム・パル)」
7/17～8/22	企画展「知内町の夏季・冬季オリンピック関係資料展(仮称)」

**七飯町歴史館 (0138-66-2181)**

期間	タイトル
未定	未定

## 胆振

**苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)**

期間	タイトル
4/29～7/4	企画展「コイノボリ大火と苫小牧消防史」
4/29～7/4	収蔵品展「苫小牧ゆかりの書 蔵出し展」
4/29～9/12	中庭展示「Vol. 16 武田浩志」
7/31～9/12	特別展「発掘された日本列島展 2021」

**室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)**

期間	タイトル
4/18 予定	体験学習会「とんとん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会」

**国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914 (ウポポイ代表))**

期間	タイトル
3/30～5/23	テーマ展示「収蔵資料展 イコロー資料にみる素材と技一」第3期

## 日高

**アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)**

期間	タイトル
4/1～6/30	企画展「幻の花 ヒダカソウ」
5月～9月	自然観察会「ブラアポイ」(月に4回程度の施設周辺の自然観察会)

## 上川

**北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)**

期間	タイトル
4/17～6/27	特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次」
4/17	講演会「江戸から京へ。広重東海道五拾三次、臥遊の旅」
4/17～6/27	常設展「匠の美」

5/15, 6/12	解説「30分でわかる！学芸員の見どころ解説」
7/10～9/5	特別展「江口寿史イラストレーション展 彼女―世界の誰にも描けない君の絵を描いている―」
7/10～9/5	常設展「北の海辺を旅する」
9/18～11/23	特別展「放浪の天才画家 山下清展」
9/18～11/23	常設展「木×彫刻 2つの彫刻賞の作家から」

**旭川市博物館 (0166-69-2004)**

期間	タイトル
7/3～8/29 (予定)	第91回企画展「アイヌ文化の動物たち (仮)」
9月	イベント「アイヌ文化ふれあいまつり」

**旭川兵村記念館 (0166-36-2323)**

期間	タイトル
4/24～10/24	特別展「第2の開拓一客土のあゆみ」
7/21～7/22	イベント「神社エール」 館無料開放、内外模擬店

**中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)**

期間	タイトル
1/5～5/9	企画展「中原悌二郎賞創設50周年特別展」 (本館)
3/27～5/30	企画展「& MORE in Station Gallery」 (ステーションギャラリー)
8/28～9/26	企画展「旭川彫刻フェスタ20周年記念展 (仮)」

**土の博物館 土の館 (0167-45-3151)**

期間	タイトル
なし	なし

**富良野市博物館 (0167-42-2407)**

期間	タイトル
4/27～5/23	特別展「白江正夫水彩画展」
7/10～9/5	特別展「アンモナイト展 (仮称)」

**名寄市北国博物館 (01654-3-2575)**

期間	タイトル
4/3～4/18	企画展「サロン・ドートンヌ会員 及川幸雄展」
4/23～5/11	企画展「野外植物展」
5月～1月 (8月除く)	観察会「小さな自然観察クラブ」 (年8回開催)
5月	観察会「博物館周辺観察会」
5/14～6/8	企画展「野鳥・キツツキ展」
6/11～6/27	企画展「風花作品展／カタツムリ展」
7/2～8/24	特別展「カブトムシとクワガタ」
9/3～9/29	企画展「探してみよう！地域のお宝」
9月	講演会「探してみよう！地域のお宝」

**士別市立博物館 (0165-22-3320)**

期間	タイトル
4月下旬～5月中旬	特別企画展「切り絵展」

4/29～5/5	「大型連休企画」
5月上旬、下旬	講座「春の自然観察会」
7月下旬	講座「夏の自然観察会」
7月末～8月下旬	臨時企画展「道北巡回展」
7月末～8月末	特別企画展「士別市立博物館40周年展」
8月上旬	講座「道北巡回展関連講座 「昭和初期のくらし」」
9月上旬	講座「考古学体験講座」
9月中旬	講座「地質めぐり」
9月中旬～11月下旬	特別企画展「岩石展」

## オホーツク

### 北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
～4/11	写真展「オホーツク物語」
5月上旬(予定)	「紋別市いきいき陶芸会展示頒布会」
5/15～5/31(予定)	「湧別カメラクラブ写真展 オホーツクの四季」
6月	「全国流水絵手紙交流展」
6月(予定)	「ギザ映画祭(仮称)」
7/17(予定)	「第10回紋別わくわく科学教室」
8/7～9/20	企画展「紋別から100万の星空体験～人類の宇宙開発を辿る～」
9/4,5	企画展関連事業「メガスターNEO」

### 博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
5/1～7/29	企画展「網走刑務所と文学 その1」
5/3～5/5	GW 特別イベント「餅つき体験」「軟石ストラップ作り」「豆わらじ作り」「昔の遊び道具作り」
5/16	ワークショップ「農園体験第1回」
6/6	ワークショップ「農園体験第2回」
6/20	体験講座「梅の枝で草木染めをしよう」
6/27	ワークショップ「農園体験第3回」
7/18	ワークショップ「農園体験第4回」
8/1～10/31	企画展「網走刑務所と文学 その2」
8/1	体験講座「大工道具で木琴を作ろう」
8/7	年中行事「七夕」
8/8	ワークショップ「農園体験第5回」
9/5	ワークショップ「農園体験第6回」
9/19～20	特別イベント「博物館網走監獄収穫祭」
9/21	年中行事「十五夜」

### 北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
6/19～8/7	美術館実技講座「水彩画入門」
7/17～8/22	美術企画展「北のアルプ美術館コレクション展(仮称)」

**とほろ遺跡の森 (0152-54-3393)**

期間	タイトル
4/29～11月上旬	「遺跡の森スタンプラリー」
8月下旬	「遺跡見学会」 (予定)

**美幌博物館 (0152-72-2160)**

期間	タイトル
～10/24	特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」
4/16, 17	プチ工房「和紙の兜折り紙」
4/24	講演会「戦中の美幌の歴史発掘」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/14, 15	プチ工房「スクラッチアート」
5/15	イベント「みどりの村で体験しよう！〈春編〉」
5/29	講演会「世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化」
6/4, 5	プチ工房「キャンドルホルダー」
6/12	体験会「草花を活けてみよう」
7/10	イベント「みどりの村で体験しよう！〈夏編〉」
7/17～10/6	ロビー展「すごい標本！すごい資料!!」
7/17	講演会「北海道の旧石器文化～白滝遺跡群の発掘調査を中心に～」
7/23, 24	プチ工房「虫よけキャンドル」
8/6, 7	プチ工房「サマーフォトフレーム」
8/21	講演会「ポータブル魚道」
9/11	体験会「描いて、つくって - アートに触れよう！」
9/17, 18	プチ工房「やってみよう！草木染め」
9/25	イベント「みどりの村で体験しよう！〈秋編〉」

**十勝****帯広百年記念館 (0155-24-5352)**

期間	タイトル
4/24	講座「史料から見る依田勉三・晩成社5」
4/24～5/9	企画展「辻川和夫写真展～光響曲 十勝野～」
5/22	自然観察会「アイヌ語で自然かんさつ」
6/19	講座「北海道の縄文土器を世界に語る」
7/17	講座「もっと知りたいアイヌ・文様」
7/25, 8/8	体験教室「つくってみよう縄文土器」
8/6～9/12	特別企画展「過ぎ去りし街角 荘田喜與志の見た帯広・十勝」
8/7	講座「写真から見る釧路のまちなみ」
9/4	講座「よみがえる昭和の情景 富良野のまちなみ、人の心」
9/11	自然観察会「ウツバツ川生きものももっと録る！」

**北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)**

期間	タイトル
4/17～6/27	特別展「開館30周年記念 森といのちの交響詩 手島圭三郎絵本原画展」
4/17～6/27	コレクション・ギャラリー「子どものイメージ」
4/24	特別展セミナー



5/22	特別展セミナー
6/5	キッズ・ツアー
6/12	キッズ・ミュージアム
7/17～9/26	特別展「開館30周年記念 カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」
7/17～9/26	コレクション・ギャラリー「版の王国」
7/17	特別展セミナー
7/24	美術講演会
8/7	キッズ・ツアー
8/14	開館30周年記念コンサート
9/4	特別展セミナー
9/18	キッズ・ミュージアム
9/20～9/26	開館30周年記念サンクスウィーク
9/22～11/7	帯広美術館30年ヒストリー

**忠類ナウマン象記念館 (01558-8-2201)**

期間	タイトル
5月上旬	企画展「アイヌ文化展」
未定	講座「化石発掘体験教室」

**広尾町海洋博物館 (博物館 01558-2-5572 広尾町教育委員会社会教育課 01558-2-0181)**

期間	タイトル
7月～8月	クイズラリー「はくぶつかんクイズラリー」

**足寄動物化石博物館 (0156-25-9100)**

期間	タイトル
4月	「ミニ恐竜展 ver.02」
5/8, 9	地質の日協賛イベント「石はみがくと玉になる」
6/27	「化石教室 螺湾・茂螺湾」
7/11	「化石教室 白糠」

## 釧路

**釧路市立博物館 (0154-42-5809)**

期間	タイトル
4/10～6/27	企画展「外来植物展～はるばるきたぜ 道東へ～」
4/17, 18	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/18, 5/16, 6/20, 7/18, 8/15, 9/19	自然観察会「春採湖畔探鳥会」
5/1	体験講座「竪穴住居で屋根ふき体験」
5/3, 4, 5	GW イベント「博物館であそぼう」
5/15, 6/19, 7/17, 8/21, 9/18	自然観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/23	体験講座「アイヌ刺繍体験講座「小さいタペストリー作り」」
5/30	自然観察会「初夏の探鳥会」
6/12, 7/10, 8/14, 9/11	自然観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
6/13, 8/22	歴史探訪会「まちなみ散歩」

7/3～10/3	企画展「クイナ展（仮）」
7/10, 8/8	体験講座「お供え山見学会」
7/18	史跡探訪会「春採湖畔史跡探訪会」
7/24	体験講座「夏休み親子土器作り教室」
7/28～8/31	出張展示「まちなか企画展（考古展示）」
7/31～8/7	体験講座「クワガタムシの樹脂封入標本作り」
9/12	体験講座「竪穴まつり」
9/26（予定）	体験講座「博物館まつり」

**北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)**

期間	タイトル
4/10	「アートシネマ館「LION(ライオン)25年目のただいま」
4/24～6/30	展覧会「Botanical Kingdom 花と樹の王国」
4/24～6/30	展覧会「新収蔵展示 奈良原一高の写真」
5/29	「アートシネマ館「手紙」
6/2, 9, 10, 15	「大人の家庭科&お気軽アート教室」※テーマ別の3講座
6/26	「アートシネマ館「ジュディ 虹の彼方に」
7/16～9/20	展覧会「安野モヨコ展 ANNORMAL (アンノーマル)」
7/31	「アートシネマ館「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」
8/28	「アートシネマ館「ぼくの好きな先生」
9/5	「道立芸術館&市立美術館 めぐる×つくる2021 生誕80年・毛綱建築バスツアー」
9/11	「パフォーミング・シアター2021 ポケットサーカス」
9/18	「アートシネマ館「ロング, ロングバケーション」

**釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)**

期間	タイトル
3/25～4/5	企画展「春休みイベント2021 あそぶ!まなぶ!ひもの世界!」
4/17	普及事業「天体観測会「星空キャラバン 月・火星大接近!」」
4/29～5/5	企画展「ゴールデンウィークイベント2021 「木木ひろば」(仮)」
5/26	普及事業「天体観測会「星空キャラバン スーパームーン皆既日食を観察しよう!」」
6/13 予定	普及事業「天体観測会「太陽の素顔を探れ!」」
7/22～8/17	企画展「夏休みイベント2021」
9/1～9/30	企画展「宇宙月間イベント」

**厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)**

期間	タイトル
4/24～5/23	巡回展「潜水調査船がみた深海生物」

**弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館 (015-482-2948)**

期間	タイトル
4/10～11/30	体験「アイヌ文様刺しゅう体験(コースター)」

## 事務局からのお知らせ

## ■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします(振込手数料はご負担くださいますようお願い致します)。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 (普) 0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

## ■2021年度の北海道博物館大会について

第59回北海道博物館大会は、2021年7月15日(木)と7月16日(金)に白老町で開催予定です。お目にかかれますことを楽しみに。

■一年間臨時職員として事務局の仕事をしてくださっていた伊藤優衣さんが、事務局を去られます。感染症の影響もあり、会員の皆様にお目にかかる機会が乏しかったのは残念です。4月からは東京都内の会社に就職されますが、札幌に帰省される折などには博物館めぐりを楽しんでほしいと思います。お元気で!

(事務局一同)



■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第128号

発行日 2021年3月17日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com